

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

30

清々しい
一日の始まり

声をかけあう大切さ

ピックアップスマイル みつやす しゅういち
代表 光安 修一

毎月第1日曜日の朝7:30~8:30の1時間、志免町の68号線、大的交差点の近くにある中の坪公園に集合してゴミ拾いをする活動をしています。ゴミを拾う=ピックアップと、活動を通じて町がきれいになり、みんなが笑顔になる=スマイルという意味を合わせて、ピックアップスマイルという活動名で発足し、2019年から現在10名ほどで活動中です。



活動のきっかけは ご近所さんからのご提案

糟屋郡で育ち、志免町は在住18年になりました。ご近所の知り合いであった堤久美子さんから「お掃除のボランティアを、光安さんが発起人になってはじめてらどうか」と、お願いのような提案があり、それが活動するきっかけとなりました。

私自身は、清掃業の会社をしております。以前から会社が取り組むボランティア活動として、所属している日本ハウスクリーニング協会の会員の方々と一緒に、施設清掃のボランティア活動を続けていました。窓やトイレ、エアコンの清掃などを半年に一度ぐらいの頻度で実施していました。堤さんから提案をいただいたころは、個人として小さな活動でもいいから、自分が住む地域に清掃のボランティアで貢献できないかと考えていたときでした。提案を受けて、二つ返事でやりますと引き受けました。

いざ、活動を始めるにあたり、メンバーをどう集めようかと考えて、堤さんのお知り合いの方と、私が志免中央小学校のPTA役員をしていた時の仲間へ声をかけ、まずは団体名を決めましょうと話し合い

の場をもちました。

団体名の案の中には、「絆」や「笑顔」という言葉を入れたいなという個人的な思いがありました。メンバーからもアイデアを取り入れて、ゴミを拾う=ピックアップと、ゴミを拾い町がきれいになって参加者も町の人みんな笑顔=スマイルになるという意味を合わせて、ピックアップスマイルという活動名で始めることになりました。



月に一度 日曜日の朝からゴミ拾い

はじめは8人ぐらいからスタートし、メンバーの増減はありますが、現在は10名ほどで活動しています。月に1回、第1日曜日の朝7時30分に、志免町の国道68号、大的交差点のそばにある中の坪公園に集合して行きます。公園からシーメイト方面へ歩きながら、鉄道公園の中や、シーメイトへの歩道、時には志免のふれあい公園方面も掃除をします。

ただゴミを拾うだけではなくて、ウォーキングとメンバー同士の会話も大切にしながら、町をきれいにする活動を続けています。活動は、2019年から始め、5年目になりました。コロナ禍も、暑すぎる



▲ビブスを着用して活動しています（団体より提供）

8月以外は活動を続けました。屋外の活動ですので、雨天や荒天の場合には安全面を考慮し、6時半ごろに中止の判断をしてメンバーに連絡します。

ゴミ拾いがもたらす波及効果 関わる人のきっかけに

団体メンバーの男女比は半々ぐらいで、40代から70代の方が活動しています。地域でのつながりづくりなどを得意とする女性が多い一方、定年後の男性が家に引きこもりがちになることが社会の課題だという認識がありました。ピックアップスマイルの活動に参加することで、男性の孤立が解消されるのではないかという思いもありました。

ゴミを拾う活動は、お金もかからず、会話を楽しみながら歩いて、健康になる活動です。1人でゴミを拾うより、団体に活動し続け、町をきれいにすることで、地域の美化への啓発活動や、皆さんの健康づくり、人と人が出会うなど様々なきっかけになっています。

ゴミを拾ってショックな時も 町の協力で気持ちが楽に

活動では、食品の包装材、ペットボトル、ビン、空き缶など燃やせるゴミ、燃やせないゴミの両方を二人一組で歩きながら拾っています。活動の最後には中の坪公園に集めます。残念ながら公園内に、捨てて帰ったと思われるまとまったゴミが置いてあり、ショックでした。特に夏場は、公園内で大人が集まって飲食をし、そのまま放置したと推測されるゴミがあります。日にもよりますが、燃やせるゴミがゴミ袋(大)で1～2袋、燃やせないゴミが1袋ぐ

らいになります。燃やせるゴミは持って帰れば処理できますが、燃やせないゴミや粗大ごみの処理に困っていました。

例えば自転車や、まとまった量の食器、壊れた傘も処理の方法を考えると困るゴミです。集めたゴミは、ずっと私や参加メンバーが持ち帰っていましたが、メンバーも処理に加わるようになり心苦しく思っていました。

そこで2023年の途中より、志免町の生活安全課にゴミ処理方法を相談し、話し合っ合意した方法で対応してもらえるようになりました。そのおかげで、気持ちが少し楽になりました。

たくさん拾ったという達成感や満足感を、活動に求めるメンバーもいます。参加しやすさは、続けやすさにつながる部分です。拾ったゴミの処理について、より良い方法をこれからも一緒に考えられたら良いなと思っています。

これからの活動に期待すること

町の人にゴミを拾う習慣が広がってくれたらいいなどは思っています。他の場所でもゴミ拾いの活動グループができたなら嬉しいですね。町の中でゴミを拾う活動者が増えた結果、町の人が活動者を見る機会が増えていくと、ゴミを捨てない習慣につながっていくのかもしれない。

日曜日の朝一番にゴミを拾う活動は、町がきれいになったという感覚だけでなく、参加者は活動に参加する前より清々しさ、爽快感、気持ちよさを感じることができ、活動の継続につながっているように思います。一緒に活動してみませんか。

取材を終えて

活動していて回を重ねると、見過ごしているゴミが見えてくるそうです。「拾うから気づくようになる」と光安さんはおっしゃいました。定期的にゴミを拾うことで、ゴミを捨てない習慣や、小さなゴミに気がつくことができ、参加者の意識が変わると、ひいては町全体の美化意識の向上にまで波及するのではないかと思います。

